

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成28年度分）

団体名：福知山市

プロジェクト名	森の文化の保全と農山村活性化プロジェクト		実施期間	平成28年度～ 平成32年度	テーマ	農山村活性化	新規・継続の区分	継続
地域における現状、課題及び住民ニーズ	<p>・丹後天橋立大江山国定公園に指定されている大江山、三岳山や山と川が近接する由良川沿いの風景、府指定天然記念物のやくの玄武岩公園や府唯一の火山である宝山一帯の夜久野高原、毛原地区に代表される棚田の風景、府指定有形民俗文化財である大原の産屋や大原神社、元伊勢三社など本市の中山間地域は自然、文化、信仰が深く結びついており、個性ある観光資源が多数あるがその魅力を十分に発信できていない。</p> <p>・中山間地域では過疎・高齢化の進行、後継者不足のために、農村風景の維持管理が困難になり耕作放棄地の拡大や森林の荒廃が進行している。新規の定住者の獲得や後継者の繋ぎ止めのためには、農林業の活性化とともに地域の魅力の再認識が求められる。</p> <p>・平成27年に京都府の地方創生戦略のひとつとして「森の京都」構想が策定され、その中で豊かな「森」の自然環境・景観の維持・保全、森の恵みを生かした食や伝統文化、産業など森に包まれた暮らし方「森の京都」スタイルの発信等が謳われている。福知山市においても「森の京都」構想に基づいて関連事業を進めPRに努める必要がある。</p>							
プロジェクトの目的及び概要	<p>丹後天橋立大江山国定公園を擁する福知山市は「森の京都」構想の中で『戦略的な交流拠点のエリア』のひとつとされており、府と協調して関連事業を行うことで緑濃い山々に育まれた観光資源・文化遺産を内外に発信する。府市の相乗効果により、多くの観光客や移住者の獲得・地元の盛り上がり期待され、農山村の活性化を図る。</p> <p>今年度においては以下の3点について事業展開を行う。</p> <p>①夜久野高原・宝山エリアの景観や自然環境を活かした観光資源の強化 ②旧三町地域において住民主体の地域協議会による、地域課題解決の推進 ③地産地消の推進と森林環境の整備、丹州材の活用、農山村の維持再生</p> <p>①では、夜久野地域にある玄武岩公園の拡張を目的として底地の整理を行うとともに、玄武岩公園から農匠の郷やくの、京都府緑化センターまでの市道に四季折々の花木を植栽し一帯に観光客呼び込む。また、丹波漆を中心としたイベントなどの補助を行う。</p> <p>②では、旧三町地域において、過疎化や公共交通、福祉などの地域の諸課題へ対応するため、地域住民主体の地域協議会の活動を支援し、地域特性に沿った活性化の取り組みを行う。</p> <p>③では、森林整備と丹州材の活用及び有害鳥獣の計画捕獲にも積極的に事業を行い、健全な森林環境を育成する。また、学校給食への地場野菜の導入推進や農山村の空き家入居者への改修補助を行う。</p> <p>こうした事業を行うことで、美しい農村風景の基盤である農林業の活性化を行い地域の魅力を高め、都市部から観光客を呼び込み「森の京都」を観光することを狙う。また、新規の定住者を受け入れて新たな農村集落を再生することを長期的な戦略の目標とする。</p>							
	総事業費（千円）	279,000	本年度事業費（千円）	55,951	交付金額（千円）	31,115		
プロジェクトを構成する事業の平成28年度事業実績（出来高数値等）								
事業分類	事業名	事業種別	事業概要			主な実績（出来高数値等）		
市町村実施事業	学校給食地産地消推進事業	交付事業	学校給食への地場産農産物導入支援補助			福知山産コシヒカリの週あたりの米飯給食4回（H28年度）		
	ふくちの農場づくり事業	交付事業	京力農場プランを作成した地域の営農組織への支援			農業機械の導入台数10台（H28年度）		
	販路開拓事業	交付事業	首都圏での地場産農産物販路拡大支援及び中小企業製品の見本市への出展経費の補助			累計助成組織数 7団体（H28年度）		
	市単独農業基盤整備事業	交付事業	土地改良施設の修繕を実施する団体への補助			実施箇所受益者数 20人（H28年度）		
住民協働事業	ふくちの農山村応援事業	交付事業	過疎・高齢化した集落において、地域住民によって実施する活性化策及び集落の活動事業への支援			自主取組の活動集落数 10地区（H28年度）		
	ふくち丹州材活用・山林保全事業	交付事業	福知山産木材を用いた家の建築への補助及び、木材の育成のための			丹州材の出荷量6,200㎡（H28年度）		
	玄武岩公園活性化事業	交付事業	森の京都構想と連携し地域資源である玄武岩公園を整備する			農匠の郷施設年間来客者数 141人（H28年度）		
	日本鬼文化交流事業	交付事業	鬼文化の関連市町の自治体、団体との交流事業経費			参加者数 850人（H28年度）		
	観光友好都市鬼伝説交流事業	交付事業	鬼伝説で交流している自治体の子どもを本市に招き、文化交流を行う事業経費			参加者数 52人（H28年度）		
	地域協議会支援事業	交付事業	地域ニーズに沿うため、地域住民主体による協議会の運営支援			主催講演会等の参加者数 1,541人		
成果指標①	成果指標の目標数値	丹州材の出荷量 6,800㎡（平成28年度）		成果指標の実績値 （〇年〇月〇日時点）	丹州材の出荷量 6,200㎡（平成29年3月31日時点）			
	成果指標の達成状況	○	（左の理由）	目標数値を若干下回ったものの、昨年の出荷量から着実に増加しているため				
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）		（時期）			
成果指標②	成果指標の目標数値	観光入込客数 340,000人（平成28年）		成果指標の実績値 （〇年〇月〇日時点）	観光入込客数 259,945人（平成29年3月31日時点）			
	成果指標の達成状況	△	（左の理由）	成果指標設定時点から入込客数の集計方法を変更したため、従来の数より少ない数値となったため				
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）		（時期）			
本年度の事業実績が成果指標の達成に与えた効果	担い手の高齢化や、近年の自然災害や異常気象により農林業をとりまく環境は年々悪化している。その中で本年度の実績は成果指標の下振れを緩和している。今後も継続してハード・ソフトの両面で環境悪化に対応しつつ、魅力ある農山村づくりに努め、人口流出の防止・移住者の獲得・都市農村間交流の促進を図る。							
※未達成の場合も効果を記載すること	※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応方針についても記載すること。							
本プロジェクトに対する自己評価	関連事業との連携効果	農山村の活性化・都市農村の交流については多角的に取り組む必要があり、基盤整備や里山整備の補助などのハード整備などの関連事業と相乗効果を十分に発現できた。						
	府と市町村等との連携に資する成果	農村の人口減少対策・活性化は府が抱える課題の一つである。例えば、鳥獣害対策については、各市単独の対策では限界があり、広域的な視野で対策を立てなければ解決はできない。広域的な課題に対し、市町村では為しえない市町村の枠を超えた調整を府が行い、市と連携して農村の活性化していくことは今後も重要である。福知山市においては周囲を自然に囲まれているため、周辺市（他県を含む）との連携は必要不可欠であり、京都ブランド化、都市部と農村の交流など他府県との連携は府の役割として非常に大きいものがある。京都府北部地域の人口対策として府の連携は欠かせない。						
	住民の自治意識を高める成果	少子高齢化が進み、過疎地域におけるコミュニティが崩れつつある中、農山村におけるイベント開催および農林業の活性化はコミュニティの強化・維持につながる。そのため、住民の地域に対する意識を高める効果は高いと考えられる。						
	リーディング・モデル成果	過疎・高齢化が進行している農山村において、生活の基盤である農林業の維持・活性化はどの自治体にとっても喫緊の課題である。農林業生産における障害を緩和しつつ新たな市場を模索する本市の取組は、未だ道半ばであるが、今後他市が参考にできる可能性が高いと考えられる。						
	行財政改革に資する成果	現在、全国的に「ブランド作り」が各市町村の重要なテーマとなっている。そのため、初期投資が必要不可欠である。そういった初期投資という意味合いでは、適切な費用対効果があると考えられる。						
	その他の成果	特記事項なし。						

（記載要領）

- 1 プロジェクトごとに本様式を作成し、評価すること。
- 2 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 3 事業種別については、交付対象事業又は関連事業の別を記載すること。
- 4 成果指標の達成状況は、目標数値を上回ったときは◎、目標数値の近似値であるときは○、目標数値を下回ったときは△、判断できないときは—を記載すること。

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成28年度分）

団体名：福知山市

プロジェクト名	城下町福知山 にぎわい創造プロジェクト		実施期間	平成28年度～平成32年度	テーマ	中心市街地活性化	新規・継続の区分	新規	継続	
地域における現状、課題及び住民ニーズ	・平成24年に福知山城直下にゆらのガーデンがオープンし、集客等について一定の成果を上げている。しかしこれが他の施設等へ波及せず、地元商店街等の活性化に繋がっていない現状がある。 ・地元商店街関係者からは人を呼び込む策を望む声が多く聞かれ、イベントやソフト事業をしっかりと組み合わせることで、ゆらのガーデンの来場者を、中心市街地の活性化に結び付けていく必要がある。お城、ゆらのガーデンから商店街そして駅北交流拠点へと結びつける歴史散策ルート、うまいもルートを設定するなど、中心市街地への流れを作る課題がある。									
プロジェクトの目的及び概要	福知山城を中心とした中心市街地の魅力を高めるため、お城周辺の賑わい創出の核となる「ゆらのガーデン」等でのハード面の整備等を行ってきた。今年度も、お城から城下町へを合言葉に、ソフト面にも一層力を入れる。地域の魅力を充実させることに力を注ぎ、人の流れを生み出す事業展開を行う。 ①お城周辺、城下町を作り出す事業 ゆらのガーデンを中心にハード整備事業を行ってきたが、観光客を福知山城から城下町（広小路商店街）へと誘導する事業を展開する。具体的には商工会の外観改修や広小路商店街に並ぶ町並のレトロな整備を行い、また、空き店舗活用チャレンジ事業による新規開店に対する援助など、城下町の魅力を一層高める事業を実施して、散策を楽しめるようにする。さらに、鉄道の町ふくちやまを象徴する施設である、福知山鉄道館ポッポランドの運営にも力を入れる。 ②地域資源を活性化させる事業 「お城まつり」「スイーツフェスティバル」「ドッコイセまつり」など、地域の個性を活かした中心市街地の賑わいを創出するイベントを支援するとともに、「福知山マラソン」の参加者に地元銘菓を提供しスイーツ観光に繋げるなど、スポーツイベント参加者に対する市内観光への誘導を行う。同時に各種イベントの開催拠点である厚生会館・御堂公園への来訪者の駐車場となる福知山パークの修繕を行い、中心市街地への観光誘客の拡大を図る。 これらの事業を展開することにより、ゆらのガーデンやお城周辺から商店街そして福知山駅周辺へと人の流れ、中心市街地の賑わいを作り出すことを目的とする。									
	総事業費（千円）	505,000	本年度事業費（千円）	101,026	交付金額（千円）	24,534				

プロジェクトを構成する事業の平成27年度事業実績(出来高数値等)

事業分類	事業名	事業種別	事業概要	主な実績（出来高数値等）	
市町村実施事業	中心市街地活性化関連道路整備事業	交付事業	中心市街地の利用者の安全性を考慮するとともに、まちなみに配慮した道路舗装整備を行う	京町線はH29年度中、広小路本町線はH30年度中の完成に向けて計画の進捗中	
	中心市街地活性化基本計画推進事業	交付事業	福知山まちづくり(株)への中心市街地活性化基本計画を推進するための事業費（委託料）	中心市街地の歩行者・自転車通行量 3,700人（H28年度）	
住民協働事業	丹波福知山まちかどラボ運営事業	交付事業	中心市街地の賑わいづくりのため、地域活動や市民活動、文化活動等の拠点や情報発信を促す施設の運営経費	まちかどラボ利用人数 1,897人/年（H28年度） 活動例：クレイフラー教室、寄せ植え講習会、広小路マルシェ等	
	まちづくり会社活動支援事業	交付事業	中心市街地活性化基本計画に基づく、事業実施のための団体への運営補助	中心市街地の歩行者・自転車通行量 3,700人（H28年度）	
	中小企業サポートセンター事業	交付事業	産学連携による共同研究等への補助（事業所、大学）	説明会等参加者の総数 130人（H28年度）	
	ふるさと就職応援事業	交付事業	地元企業への理解を高め、定着支援に努める	就職内定者数 42人（H28年度）	
	いきいきシルバーエイジエンジョイ事業	交付事業	市内の75歳以上の高齢者に乗車券を低額で販売し、公共交通利用促進を図る	申請者数 1,502人（4,083冊）（H28年度）	
	高校生定期乗車券補助事業	交付事業	市内在住の高校生を対象とした通学定期券購入補助	申請者数 59人（259件）（H28年度）	
	元気出す地域活力支援事業	交付事業	地域住民が地域活力向上や課題解決を行う事業に対する補助	補助金交付団体 17団体（H28年度）	
	丹波福知山明智光秀サミット開催事業	交付事業	福知山城天守閣再建30周年、城主明智光秀をテーマにイベントを開催する	入場者数 900人（H28年度）	
	スポーツ合宿補助事業	交付事業	福知山市でスポーツ合宿を行う市外の団体に対し補助を行い、地域間交流の活性化を図る	利用者（泊）数 942人（H28年度）	
	知山市地域公共交通再編実施計画策定事業	交付事業	H27策定の計画の方針に基づき、市内バス等の交通体系を再編する	市民一人当たりの年間路線バス利用回数 6.8回（H28年度）	
成果指標①	成果指標の目標数値	中心市街地の歩行者・自転車通行量 3,937人（平成28年度）		成果指標の実績値（〇年〇月〇日時点）	中心市街地の歩行者・自転車通行量 3,700人（平成29年3月31日時点）
	成果指標の達成状況	○	（左の理由）	成果目標に近い値であり、昨年度の実績値からも増加しているため	
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）		（時期）
成果指標②	成果指標の目標数値	創業支援窓口による創業者数 20件（平成28年度）		成果指標の実績値（〇年〇月〇日時点）	創業支援窓口による創業者数 25件（平成29年3月31日時点）
	成果指標の達成状況	◎	（左の理由）	達成	
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）		（時期）

本年度の事業実績が成果指標の達成に与えた効果
 各成果指標の目標数値は長期計画（H28年度）の数値をあげており、達成した項目もあり今年度としては適正な数値であると思われる。
 ※未達成の場合も効果を記載すること
 ※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応方針についても記載すること。

本プロジェクトに対する自己評価	関連事業との連携効果	関連事業と各種イベント等が組み合わせることにより、観光客数の増加が見込まれた。
	府と市町村等との連携に資する成果	今後京都府を活性化させるためには、市町村単独の枠を超え、広い範囲の市町村が連携していく必要があると考える。とりわけ福知山市においては、府の協力の下「府下唯一の中心市街地活性化認定市」として国より認定を受けている。こうした市を核にして、京都府の支援・調整の下、中丹全域の市町村及び他都道府県市町村とが連携できれば、今後も広域的な地域活性化が可能である。そうした成功例を作ることにより、府下で同様に中心市街地衰退の苦慮する他市町村に有効な施策を講じることができると連携効果は大きいと考えられる。
	住民の自治意識を高める成果	イベントそのものが住民に溶け込んでおり、地域住民にとってもかかせないものとなっている。こうした既存のイベントを長年続けていくことにより住民間の自治意識が、より高まっていくという成果があると考えられる。
	リーディング・モデル成果	福知山マラソン大会は、知名度が高く、参加者数も多い。そのために、その北部を盛り上げるイベントとして大きな成果があったといえる。また、様々な地域に根ざしたイベント等の取組を行うことで地元の中心市街地活性化への意欲は高まっている。「府下唯一の中心市街地活性化認定市」として今後も事業を進めていくことで、他市に対しても先駆的な存在となっており、府下で同様に中心市街地衰退の苦慮する他市町村に有効な施策を講じることができると考えられる。
	広域的波及成果	知名度も高く、参加者数も1万人規模と多く市を代表したイベントとなっている福知山マラソンや、市内に散在した施設を利用し合宿を行う合宿補助事業など、全国から来福者が見込まれる事業においては観光面や地域活性化の面で広域的波及成果は高いと思われる。
	行財政改革に資する成果	福知山市のブランドを確立するためには、過去からの事業を今後も続けていくことは大きな成果があると考えられる。
	その他の成果	特記事項なし。

（記載要領）

- プロジェクトごとに本様式を作成し、評価すること。
- 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 事業種別については、交付対象事業又は関連事業の別を記載すること。
- 成果指標の達成状況は、目標数値を上回ったときは◎、目標数値の近似値であるときは○、目標数値を下回ったときは△、判断できないときは―を記載すること。

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成28年度分）

団体名：福知山市

プロジェクト名	人と豊かな自然が共生する社会の創造プロジェクト		実施期間	平成28年度～平成32年度	テーマ	環境・エネルギー	新規・継続の区分	継続
地域における現状、課題及び住民ニーズ	<p>・資源の有効な活用により、新しい価値観に基づいた低炭素型・循環型社会への転換が必要となっている。</p> <p>・本市におけるごみ排出量は、プラスチック製容器類の分別収集の浸透などにより減少傾向にあるが、不燃ごみは増加傾向にあり最終処分場の使用期間は計画より早まる恐れがある。今後も、ごみの減量・資源化に対する意識変革などにより、さらなるごみの排出抑制対策が必要になっている。</p> <p>・節電の意識が高まるなか、本市においても、環境や再生可能エネルギーに対する関心が高まってきている。</p>							
プロジェクトの目的及び概要	<p>環境問題という大きな課題に取り組む際には、「行政と市民との協働」により環境施策の達成を行う必要がある。そこで、今年度も、次の2点を主としたプロジェクトの展開を図る。</p> <p>①住宅用太陽光発電システム設置事業 ②リサイクル施設の安定稼働、リサイクル関連事業</p> <p>①では、福知山市は中丹最大の住宅用太陽光発電の申請数があり、今年度も引き続き補助を行う。（国の補助制度廃止や行政評価により、「補助基本額」の見直しを行った。1kw当り20,000円から10,000円へ）依然として住宅建設促進による経済循環と環境施策、の2つの面から効果は有効である。</p> <p>②では、不燃ごみの量を減らし、施設の安定稼働を続けていくために、ごみの減量化は市民の責務であることを、広報する事業として、資源ごみ集団回収報奨金事業を行うことや、リサイクル体験教室やリユースショップを環境パーク内で行うことで、リサイクルについての市民の意識向上をより一層目指す。携帯電話に代表される小型家電製品の分別収集に対応する設備体制や、老朽化した設備の改修など計画的に整備をすすめる。</p> <p>以上を踏まえ、昨年度よりも住民とより一層の協働を進め、長期的には、「府内で最も環境施策に対して力をいれている」とイメージされる市のブランドの確立を目指す。</p>							
	総事業費（千円）	468,000	本年度事業費（千円）	93,628	交付金額（千円）	9,255		
プロジェクトを構成する事業の平成27年度事業実績（出来高数値等）								
事業分類	事業名	事業種別	事業概要		主な実績（出来高数値等）			
市町村実施事業	リサイクルプラザ修繕	交付事業	長期整備計画に基づき資源ごみの中間処理を適正に行っていくための施設の改修を行う		リサイクルプラザ不燃ごみ処理設備の改修を実施することで年間を通して滞りなく資源分別処理を行うことができた。			
成果指標①	成果指標の目標数値	環境基本計画プロジェクトへの参加者数 2,486人（平成28年度）		成果指標の実績値 ○年○月○日時点	環境基本計画プロジェクトへの参加者数 2,557人（平成29年3月31日時点）			
	成果指標の達成状況	◎	（左の理由）		達成			
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期	（理由）		（時期）				
成果指標②	成果指標の目標数値	一人当たりのごみ排出量 155kg（平成28年度）		成果指標の実績値 ○年○月○日時点	一人当たりのごみ排出量 152kg（平成29年3月31日時点）			
	成果指標の達成状況	◎	（左の理由）		達成			
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期	（理由）		（時期）				
本年度の事業実績が成果指標の達成に与えた効果	<p>市民協働により策定した環境基本計画に掲げる活動を実施し、多くの市民の参加を実現できた。また、公害対策等に関する啓発活動や環境測定も行き、本市の環境保全の推進を図ることができた。</p>							
※未達成の場合も効果を記載すること	<p>※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応策についても記載すること。</p>							
本プロジェクトに対する自己評価	関連事業との連携効果	ごみ問題については、各事業と連携していかなければ、成果はあげられない。そのことから大気・水質・騒音等の環境調査や市民協働による環境基本計画推進事業を継続し、成果指標の達成を効果的に継続していく。						
	府と市町村等との連携に資する成果	福知山市においては、環境問題は、ごみのリサイクル利用と太陽光発電などの再生可能エネルギーを中心施策として取り組んでいる。とりわけ、再生可能エネルギーについては、京都府策定の「地球温暖化対策推進計画」でも謳われており、府の施策と直接連携できており成果が出ていると考えている。						
	住民の自治意識を高める成果	環境基本計画推進事業は市民協働で取り組む事業であり、住民意識を高める成果はあったと考えられる。また、資源ごみ集団回収報奨金事業も地域住民が協力してごみ処理に取り組む活動であり、自治意識を高める事業であった。						
	リーディング・モデル成果	福知山市のご当地キャラクターである「ゴーヤ先生」の全国的な活動を利用した福知山市の環境啓発・環境教育等のPR活動は、リーディングモデル成果としては高いものであると考える。						
	広域的波及成果	環境基本計画推進事業において、一定の知名度を持つ「ゴーヤ先生」の幅広い活動により、本市のみどりのカーテン促進事業は全国的なアピールがされており、成果が高いと考えられる。						
	行財政改革に資する成果	環境基本計画推進事業は、市民、事業者、各種団体のボランティアにより進められているものであり、活動経費には人件費が含まれておらず、低コストで効率的な事業が展開できている。						
	その他の成果	特記事項なし。						

（記載要領）

- 1 プロジェクトごとに本様式を作成し、評価すること。
- 2 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 3 事業種別については、交付対象事業又は関連事業の別を記載すること。
- 4 成果指標の達成状況は、目標数値を上回ったときは◎、目標数値の近似値であるときは○、目標数値を下回ったときは△、判断できないときは－を記載すること。

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成28年度分）

団体名：福知山市

プロジェクト名	安心して安全に暮らせるまちづくりプロジェクト		実施期間	平成28年度～平成32年度	テーマ	まちの安心・安全対策	新規・継続の区分	継続
地域における現状、課題及び住民ニーズ	<p>・福知山市はかつてより、洪水による被害に悩まされてきた。平成16年の台風23号、平成25年の台風18号、平成26年8月豪雨災害と、度重なる水害により多くの地域で家屋や農地、道路が浸水し多くの被害が発生している。</p> <p>・由良川の築堤整備は、由良川中流部（連続堤区間）では概ね進んでいるものの、下流部では42.1%と、いまだに多くの無堤区間が存在しており、連続堤防および、輪中堤、ならびに宅地高上による治水対策が急務となっている。</p> <p>・火災をはじめとする各種災害や事故への対処や傷病者の救命率を向上させるためには、あらゆる災害に迅速、的確に対応できる人材の育成や体制の強化、消防施設の整備が求められている。</p> <p>・地域防災の要である消防団員の確保が困難となる傾向にあることから、消防団組織や活動の充実と併せ、災害対応の基本となる地域や住民の自助、共助力を高めていく必要がある。</p>							
プロジェクトの目的及び概要	<p>地震などの突発的な大災害については、事前に対策をたてても、完全に被害をゼロとすることは困難である。そのため、いかに被害を最小限に抑え、素早く復旧させるかが行政の課題となっている。</p> <p>①住民による救急の絆事業や自主防災組織の育成等 ②災害時の業務復旧の短縮化対策等</p> <p>に課題を絞った防災対策プロジェクトとする。</p> <p>①については、めざせ！「救命の絆」世界一の事業として、市民からの公募による市民救急救命指導員を養成する事業を行い、1世帯に1人の配置を目指す。自主防災組織育成を行い、防災行政無線を指定地域に整備することにより、市民の危機管理意識の高揚を図る。特に福知山市防災センターは、防災対策を体験したりすることができる施設であり、この施設をさらに充実させ、家庭や地域で災害に対する危機意識を育て、より一層自主的に防災活動を推進していく力を生み出すことができる。</p> <p>②については、平成25年の台風18号、昨年8月の豪雨災害の経験を踏まえ、市民への情報伝達の多チャンネル化や、地域ごとの防災意識の向上を図りつつ、地域の防災拠点である公民館等の整備について支援を行う。併せて災害時の資機材整備を図る。</p> <p>長期的戦略としては、行政と住民組織との共助による災害時の迅速かつ確な対応体制の確固たる確立を図る。</p>							
	総事業費（千円）	222,400	本年度事業費（千円）	44,480	交付金額（千円）	19,416		
プロジェクトを構成する事業の平成27年度事業実績（出来高数値等）								
事業分類	事業名	事業種別	事業概要			主な実績（出来高数値等）		
市町村実施事業	消防車両管理事業	交付事業	特殊車両の装備品について保守点検を行い、性能を維持する			計画に従い、滞りなく保守点検作業を行うことができた。		
	消防資機材整備事業	交付事業	消防活動用資機材の計画的な更新を行い、効果的な現場活動を行う			定員充足率 86%（H28年度）		
成果指標①	成果指標の目標数値	自主防災組織の組織率 79%（平成28年度）			成果指標の実績値（〇年〇月〇日時点）	自主防災組織の組織率 77.7%（平成29年3月31日時点）		
	成果指標の達成状況	○	（左の理由）			成果目標に近い値であり、昨年度の実績値からも増加しているため		
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）			（時期）		
成果指標②	成果指標の目標数値	自主防災リーダー養成講座受講者数（累計） 2,348人（平成28年度）			成果指標の実績値（〇年〇月〇日時点）	自主防災リーダー養成講座受講者数（累計） 2,527人（平成29年3月31日時点）		
	成果指標の達成状況	◎	（左の理由）			達成		
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）			（時期）		
本年度の事業実績が成果指標の達成に与えた効果	各事業の実施により防災に対する市民意識が高まっており、各成果指標の目標数値は長期計画（H28年度）の数値を達成している。							
※未達成の場合も効果を記載すること	※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応方針についても記載すること。							
本プロジェクトに対する自己評価	関連事業との連携効果	防災関係については、様々な事業を絡めて防災対策・防災意識を高めていかなければならない。各地域のコミュニティ形成や、非常食の補充など、連携効果は十分にあったと考えられる。						
	府と市町村等との連携に資する成果	防災は広域にわたって対策を行うべき事項である。近年ゲリラ豪雨などの多発により被害は局所的であるが甚大なものが多い。また府北部では、市域の一部も大飯原発のUPZ圏内に含まれており、府の全体的な計画のもと対策を立てる必要があるなど府との連携効果は非常に高いと考えられる。						
	住民の自治意識を高める成果	消防庁舎改修事業のようなハード面の設備だけでなく、コミュニティFM放送防災情報提供事業のソフト面の事業からも住民の防災意識を高めることができたと考えられる。						
	リーディング・モデル成果	総合防災センターが完成し、センターを活用した体験学習や、市民講座などは、周辺自治体よりも防災意識の高揚があり、地域の防災に寄与している。						
	行財政改革に資する成果	防災に関しては、安易に費用対効果のみを求めることはできない。ソフト事業を増やすことで、限られた財源の中で十分に成果を出していると考えられる。						
	その他の成果	平成26年8月豪雨災害において市街地の大半が冠水し甚大な被害を受けた。課題も多数あるが消防の適切な救助活動等一定の成果はあげられた。今後も防災意識の向上、防災体制の強化に努める。						

（記載要領）

- 1 プロジェクトごとに本様式を作成し、評価すること。
- 2 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 3 事業種別については、交付対象事業又は関連事業の別を記載すること。
- 4 成果指標の達成状況は、目標数値を上回ったときは◎、目標数値の近似値であるときは○、目標数値を下回ったときは△、判断できないときは—を記載すること。

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成28年度分）

団体名：福知山市

プロジェクト名	子どもから高齢者まで健やかに暮らせるまちづくりプロジェクト		実施期間	平成28年度～平成32年度	テーマ	少子化対策	新規・継続の区分	継続
地域における現状、課題及び住民ニーズ	<p>・本市は、18年1月に1市3町の合併をし、合併から10年を経て少子高齢化、核家族化が加速的に進んでおり、子育て支援のニーズは年々多様化している。地域社会全体で子どもと子育てをいかに見守り、支援していくかが課題となっている。</p> <p>・共働き家庭が増加傾向にあり、保育園の延長保育や、放課後児童クラブの利用者も増えている。なかでも放課後児童クラブの対象が小学校6年生まで拡大することを受けてソフト・ハード面での拡充が必要である。</p> <p>・これらの課題に対して、子育て世代の負担軽減と子供の健全な成長を支えるため、市・学校・家庭・団体・地域等が連携・協働した取り組みが必要となっている。</p>							
プロジェクトの目的及び概要	<p>①教育環境の向上②児童生徒の学力向上に重点を置いて事業を行う。</p> <p>①は、教育環境充実の事業を行う。</p> <p>心の安定基地づくり事業は、不登校傾向の児童生徒が通う「けやき広場」での適応指導を継続するとともに、支援や相談相手となる訪問指導員を小学校に配置等、不登校総合対策事業として学校復帰、自己実現を助ける。また、公立保育園においては施設修繕を引き続き行う。</p> <p>この2つを中心に、子ども、保護者の視点にたった事業を展開する。</p> <p>②は児童生徒に対する事業を行う。</p> <p>スクールサポーター配置事業では、学習障害等の課題のある児童生徒や日本語を理解できない児童生徒に対し、担任教師と連携しよりきめ細やかなサポートをすることで学校教育の質的向上を図る。まなびのつながり強化推進事業では、学校間の交流を深め、児童ならびに教員の「ちから」の向上を目指す。これら事業を柱として、地域で見守る子ども子育て応援事業、文武向上プラン学校支援事業を行い、教育のまち・ふくちやまとして、市民に広くアピールしていく。</p>							
	総事業費（千円）	403,000	本年度事業費（千円）	80,634	交付金額（千円）	16,572		
プロジェクトを構成する事業の平成27年度事業実績（出来高数値等）								
事業分類	事業名	事業種別	事業概要			主な実績（出来高数値等）		
市町村実施事業	スクールサポーター配置事業	交付事業	学習障害等の課題のある児童生徒を連携してサポートし、教育の質の向上を図る			スクールサポーター数 44人（H28年度）		
成果指標①	成果指標の目標数値	一日あたりの読書をする時間が30分以上の小中学生の割合 小学生50.9% 中学生35.3%（平成28年度）		成果指標の実績値 （〇年〇月〇日時点）	一日あたりの読書をする時間が30分以上の小中学生の割合 小学生30.2% 中学生23.9%（平成29年3月31日時点）			
	成果指標の達成状況	△	（左の理由）		成果指標設定時と集計用アンケートが異なるため。			
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期	（理由）		（時期）				
成果指標②	成果指標の目標数値	小学校と保育園の情報共有・連携を行った回数 8回/年（平成28年度）		成果指標の実績値 （〇年〇月〇日時点）	小学校と保育園の情報共有・連携を行った回数 7回/年（平成29年3月31日時点）			
	成果指標の達成状況	○	（左の理由）		実績値がH27年度の目標値に近い。			
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期	（理由）		（時期）				
本年度の事業実績が成果指標の達成に与えた効果	各成果指標の実績値は長期計画（H28年度）の数値の数値を上回り、教育の充実が図られた。							
※未達成の場合も効果を記載すること	※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応方針についても記載すること。							
本プロジェクトに対する自己評価	関連事業との連携効果	関連事業との組み合わせの相乗効果により、長期計画における成果指標をクリアできたと考えられる。						
	府と市町村等との連携に資する成果	教職員をサポートする本市独自の「スクールサポーター事業」については、府と市の連携により一定の成果が教育現場に出ていると考えられる。						
	住民の自治意識を高める成果	スクールサポーター事業や放課後児童クラブ運営事業などを介して、地域の住民がかかわりを持つ中で、自治意識の高まりがあると考えられる。						
	リーディング・モデル成果	教職員をサポートする本市独自のスクールサポーター配置事業によるスクールサポーター数は他市より多く設置しており、他市が参考にする可能性は高い。						
	広域的波及成果	特になし。						
	行財政改革に資する成果	前年度とほぼ同じ予算で成果指標が上がっているため、効率的な事務運営が進められたと考えられる。						
	その他の成果	特記事項なし。						

（記載要領）

- プロジェクトごとに本様式を作成し、評価すること。
- 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 事業種別については、交付対象事業又は関連事業の別を記載すること。
- 成果指標の達成状況は、目標数値を上回ったときは◎、目標数値の近似値であるときは○、目標数値を下回ったときは△、判断できないときは—を記載すること。

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成28年度分）

団体名：福知山市

プロジェクト名	もう一つの京都推進プロジェクト（福知山市）		実施期間	平成27年度～平成29年度	テーマ	その他（もうひとつの京都）	新規・継続の区分	継続
地域における現状、課題及び住民ニーズ	<p>地域創生の実現のためには、地域の魅力を最大限に引き出し、交流人口の拡大・産業の振興を図ることが必要である。特に、以下の課題がある。 担い手不足や木材価格の低迷などにより集落機能の維持・管理が困難になっており、新たな視点で森資源を活用する必要がある。また、森林の公益的機能が低下することや森の文化の継承が困難であることについて懸念があり、野生鳥獣被害への対応も求められている。 これらに対応するため、「森とくらし 森にあそび 森をまもる」をテーマとして、市民一人ひとりが「美しいふるさと 福知山」を未来に引き継いでいく。このため、地域の実践者をはじめ事業者・NPO・行政などの多様な主体が協働して各地域の歴史と文化、観光等、そして農林業の振興を推進し、定住促進と交流人口の増加を図る。</p>							
プロジェクトの目的及び概要	<p>豊かな森の恵みを受けて地域が伝承してきた文化・伝統・景観を大切にしつつ、森の再生と地域資源の価値や魅力の再構築を通じて、市民の郷土愛を育むとともに定住促進と交流人口の増加を図る。</p> <p>○里山等の豊かな自然環境・景観に対する人々の関心を高め、福知山の山や森をはじめとする自然遺産を市民共通の財産として将来にわたって維持・保全する。 ○歴史や伝統文化、景観を守りながら、地域の住民自らが、その価値を実感し、地域への誇りと郷土愛を共有するという「森の京都 福知山」スタイルを確立し、次世代へ引き継ぐ。 ○山と森を適切に管理し、公益的機能を高め、野生生物との棲み分けや自然災害への対策を図る。 ○大江山・三岳山や夜久野高原・宝山を核に、交流産業の振興による経済効果の波及を生む仕組みを創出する。 ○森の価値・魅力・可能性を高めることで丹州材等の林業の付加価値を向上するとともに、林業を地域経済や景観保全を支える基盤として成り立たせていく。 ○福知山に「移住」「二地域居住」「定住」したい人たちの雇用と収入・定住の場を確保し、持続可能な生活圏を形成する。 ○多様な実践者・団体・事業者・ボランティア・京都府・福知山市が協働し、相互の交流・結合・補完を通じて地域資源の再発見と新たな価値の創造を図る。</p>							
	総事業費（千円）	84,200	本年度事業費（千円）	34,262	交付金額（千円）	16,460		
プロジェクトを構成する事業の平成27年度事業実績（出来高数値等）								
事業分類	事業名	事業種別	事業概要			主な実績（出来高数値等）		
市町村実施事業	三段池公園カルチャーパーク整備事業	交付事業	三段池公園内の運動施設の充実、及び動物園の整備を図り来場者の増加を、ゆらのガーデンや、城下町に人を呼び込み相乗効果を生み出す			利用者数 306,655人（H28年度）		
	森の京都 大江山グリーンロッジ整備事業	交付事業	グリーンロッジの客室ユニットバスの改修を行う			利用者数 15,352人（H28年度）		
住民協働事業	森の京都 集落間連絡作業道整備事業	交付事業	森林整備促進のための作業道として、福知山市天座・北原間を結ぶ作業道を整備する			木材搬出量 3925m ³ （H28年度）		
成果指標①	成果指標の目標数値	三和荘・農匠の郷やくの・酒呑童子の里 入込客数 394,060人（平成28年度）		成果指標の実績値（〇年〇月〇日時点）		三和荘・農匠の郷やくの・酒呑童子の里 入込客数 259,954人（平成29年3月31日時点）		
	成果指標の達成状況	△	（左の理由）	成果指標設定後、入込客数の集計方法が変更となったため				
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）			（時期）		
本年度の事業実績が成果指標の達成に与えた効果	平成26年度豪雨災害の影響により、宿泊者数が伸び悩んだものの、本市と近隣市町、府と連携し、北部一帯の産業、観光振興の増進を図ることができた。							
※未達成の場合も効果を記載すること	※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応方針についても記載すること。							
本プロジェクトに対する自己評価	府と市町村等との連携に資する成果	京都府及び関係6市町で費用を負担しあう形で協力して実施しており、効率的に実施できている。						
	広域的波及成果	今回整備を行った三段池はスポーツ施設として全国大会や合宿などでの利用や動物園での集客など、広域的な呼び込み効果の高い施設となっており、波及効果が期待できるものである。						
	その他の成果	イベントでの体験などを通じて多くの人を呼び込み地域の良さを知っていただくきっかけ作りを行うことができています。						

（記載要領）

- 1 プロジェクトごとに本様式を作成し、評価すること。
- 2 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 3 事業種別については、交付対象事業又は関連事業の別を記載すること。
- 4 成果指標の達成状況は、目標数値を上回ったときは◎、目標数値の近似値であるときは○、目標数値を下回ったときは△、判断できないときは－を記載すること。